



伊丹市マスコット たみまる

着実に育っています！ 伊丹市の子どもたちの学力

令和6年 9月 伊丹市教育委員会

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果から、伊丹市の子どもたちの学力・学習の状況をお知らせします。

(本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です)

全国の平均正答率を100とした場合の伊丹市の平均正答率の値

小学校 ()は 平均正答率	国語	算数
	103.4(70%)	105.7(67%)

中学校 ()は 平均正答率	国語	数学
	101.5(59%)	106.7(56%)

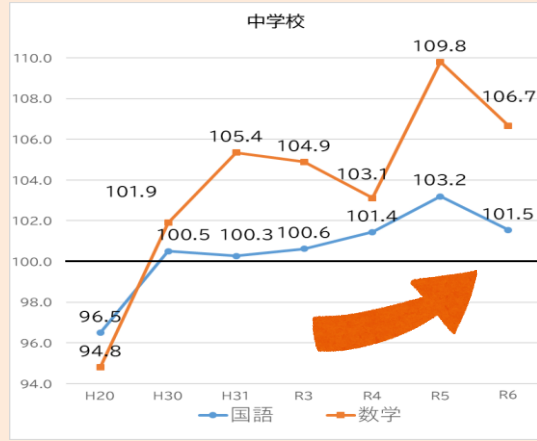
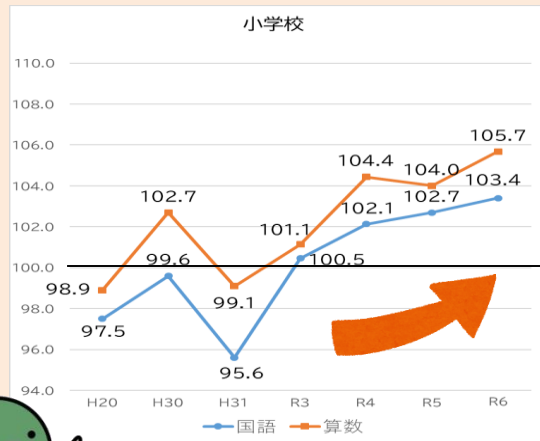
*本市の平均正答率については、文部科学省より整数値で公表

全ての実施教科で全国平均を上回っています



伊丹市マスコット たみまる

経年変化

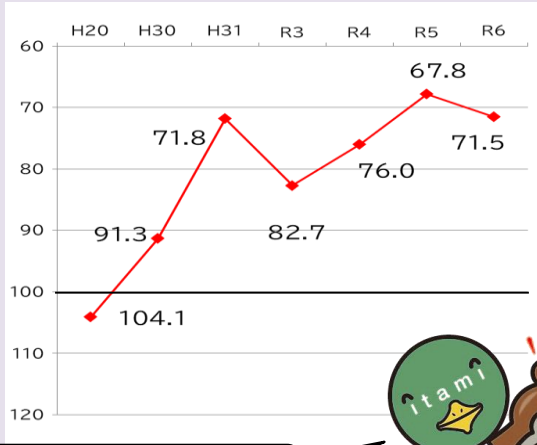
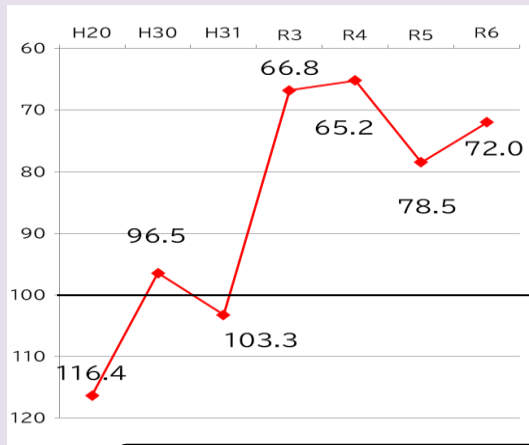


経年で見えていくと、小学校・中学校ともに向上しています

伊丹市マスコット たみまる

無解答率の経年変化

全国の無解答率を100とした場合の伊丹市の無解答率の推移
(国語と算数・数学の合計) *数値が低いほど、無解答が少ない



あきらめずに、最後までがんばっています



伊丹市マスコット たみまる

今後充実させたい取組を具体的な問題（抜粋）から検証しました

小学校「国語」「条件に合わせて考えを書くこと」が苦手な児童が多いです



伊丹市マスコット たみまる

問題2のニ【概要】

「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に次の条件に合わせた内容を書く

【条件】

- ①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
- ②(高山さんの取材メモ)の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと
- ③六十文字以上、百字以内にとめて書くこと

この問題の
正答率

条件①②③全て○	
伊丹市	59.9%
全国	56.6%

【高山さんの文章】

みんな仲よし「たてわりはん」
わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年のひととも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生にたてわりの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、きょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょにたてわって熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるころだと思ひます。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをくねらせるようにしています。

【高山さんのメモ】

「たてわり遊び」について
6年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
ドッジボール 上級生は遠くからボールをくねらせる
下級生に聞いたこと
○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しそうであつた

「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであつた」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流がでるところだと思ひます。

たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。このように、みんながたてわり遊びをしました。
(条件①「自分の考え」が書けていない)

多かった
間違い

条件②は書いているが、 ①(自分の考え)が書けていない	
伊丹市	31.3%
全国	33.0%

今後

必要な情報をもとにして、「自分の考え」を持ち、目的や条件に合わせて、「事実」と「感想・意見」を区別するなど、適切に文章を書く取組の充実を図ります。

中学校「数学」「データの分布の傾向を比較し、判断の理由を説明すること」が苦手な生徒が多いです



伊丹市マスコット たみまる

問題7の2【概要】

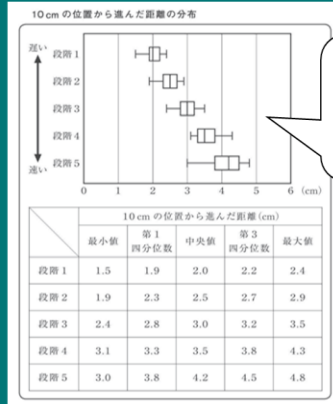
複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

前ページの10cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

説明
したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

(正答の条件)
次の(a)又は(b)について記述しているもの。
(a) 箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること
(b) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること



5つの箱ひげ図を比較して傾向を説明する

速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。

段階1と段階5を比べると約2倍の差がある。(正答の条件を満たしていない。)

この問題の
正答率

	伊丹市	30.7%
	全国	26.0%

この問題の
無解答率

	伊丹市	21.0%
	全国	29.4%

約5人に1人が無回答

*数値が低いほど、無解答が少ない

今後

日常生活や社会の事象を考察する場面で、表やグラフなどからデータの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合に、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する取組の充実を図ります。

【出典】令和6年度 全国学力・学習状況調査
※問題は内容がわかる程度に省略しています

調査問題・正答例・解説資料は
こちらからご確認ください
(国立教育政策研究所HP)



学習状況調査（主なもの）



伊丹市マスコット ひこまる

よいところは
もっと伸ばしたい！

小：小学校
中：中学校

児童・生徒質問紙の中で、
肯定的な回答が、80%より
上回っているものは☆の形、
下回っているものは○の形
の中に記入しています

Well-being!

人の役に立つ
人間になりたい

小：96.7%
中：95.4%

普段の生活の中で
幸せな気持ちに
なることがある

小：91.0%
中：90.2%

友だち関係に
満足している

小：89.3%
中：92.4%

ICT機器を
使いこなす力

友だちと考えを共有したり
比べたりしやすくなる

小：87.5%
中：90.8%

わからないことを
すぐに調べられる

小：93.1%
中：95.8%

協働性

授業や学校生活では、友達や
周りの人の考えを大切にして、
お互いに協力しながら課題の
解決に取り組んでいる

小：90.3%
中：90.0%

これから
高めたい！

見直し調整する力

学習した内容について、
分かった点や、よく分からな
かった点を見直し、次の学習
につなげることができている

小：77.8%
中：73.3%

教科を好きな
気持ち

国語の勉強が
好き

小：58.2%
中：60.7%

算数・数学の勉強が
好き

小：62.7%
中：57.0%

主体性

自分の考えがうまく伝わる
よう、資料や文章、話の組
立てなどを工夫して発表し
ていた

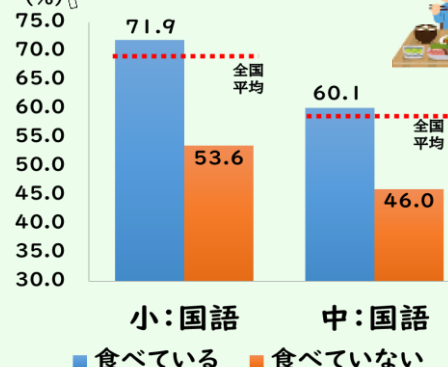
小：62.2%
中：56.8%

日々を見直す機会に（学習状況調査と平均正答率のクロス集計より）

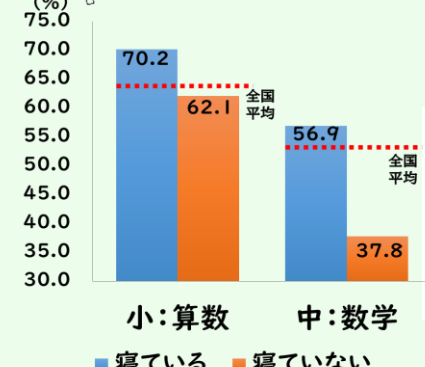
家庭では「規則正しい」生活習慣を

クロス集計は相関関係(*)が見られるかを
分析したものであり、因果関係を示したも
のではありません。(※2つの項目の何らかの関係性のこと)

「毎日朝食を食べていますか」
の質問への回答別平均正答率

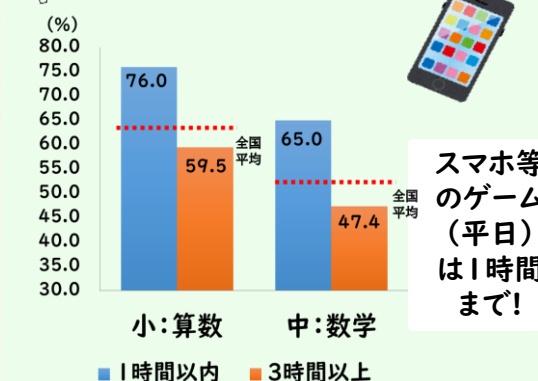


「毎日決まった時刻に寝ていますか」
の質問への回答別平均正答率



決まった時刻の
起床、就寝
(早寝・早起き)
朝ごはんが
大切！

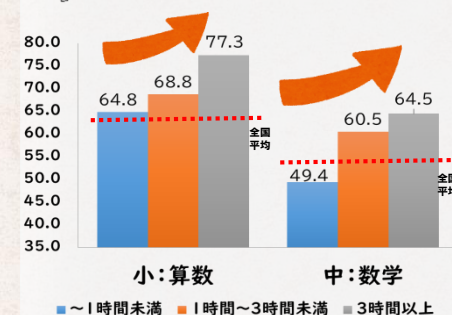
平日1日当たりのテレビゲーム(スマホ等)
使用時間別の平均正答率



スマホ等
のゲーム
(平日)
は1時間
まで！

学習習慣の確立を

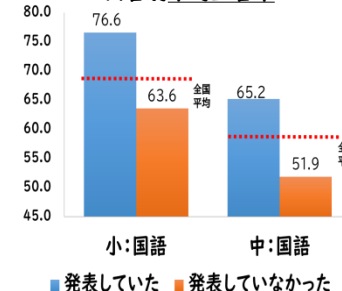
学校が休みの日の勉強時間を「1時間
未満」「1時間～3時間」「3時間以上」
と回答した児童生徒の平均正答率



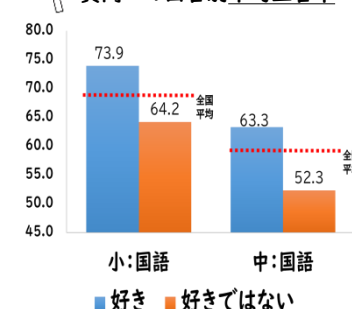
休日の勉強
時間が長い
ほど高い結
果に！

学校では 一重点：主体性・問いを立てる力・コミュニケーション能力

「自分の考えがうまく伝わるようエ
夫して発表していましたか」の質問
への回答別平均正答率



「国語の勉強は好きですか」の
質問への回答別平均正答率

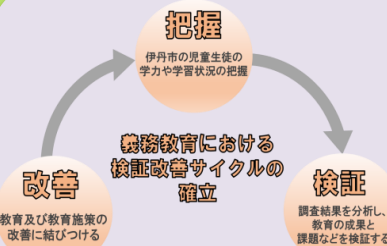


「個別最適な学び」の推進

一斉指導による正解主義から脱却し、
自分にとって必要な学びを自分の力で
進めていくことができるよう努めます！

主体的・対話的で深い学びの実践

子どもが学びの主体となれるよう、教
科の楽しさが伝わる体験や実感を伴う
授業の充実を図ります！



本調査で測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学
校の教育活動の側面です。一方で、全国で実施されている
貴重なデータでもあります。
今回の調査結果をもとに、自分たちの学校や市の状況を把
握し、検証し、改善に努めていくことが大切です。
子どもたちの「最善の利益」のためにも「学力の向上」は重
要です。子どもたちの学力向上につながるよう、学校・家庭・
地域が協力して支えていきましょう！



これまでの
「伊丹市の学
力の現状と対
策」はこちら